

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1175100898		
法人名	株式会社ユニマツそよ風		
事業所名	新座グループホームそよ風		
所在地	埼玉県新座市堀ノ内1-3-32		
自己評価作成日	平成 年 月 日	評価結果市町村受理日	平成27年 6月 19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/11/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&Jigvovocd=1175100898-00&PrefCd=11&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル2階
訪問調査日	平成 27年 3月 13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員の数人体制は厳しいものの、室内装飾等で季節感を出し、外出できない分、中に居ても季節を感じてもらえるよう取り組んでいる。各ユニット間の交流があり、入居されている皆さんが、色々な方と交わりが持てるよう対応できている。職員と入居されている皆さんとの笑顔が多いセンターです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設当初から管理者が変わることなく、利用者が過ごしやすい環境の提供、家族からの意見が反映されやすい情報収集、働きやすい職場環境、職員育成等の利用者サービス向上に繋がるよう取り組みがされている。認知症、接遇、身体拘束など職員が戸惑う事例を研修内容に含めて取り組み、各ユニットが孤立しないよう、全フロアの職員が共通認識をもってサービス提供にあたっている。利用者のプライバシーや羞恥心に配慮した声掛けの方法などの気配りが施され、利用者や家族が安心して生活できる対応が行われている。利用者の生活状況が変化していることから、外出できない利用者に事業所の中でも季節を感じられるように、花壇を設置したり、伝統行事を目で見える形で楽しめる空間提供がなされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はあるが全職員把握していない事もある。	事業所独自の理念を作り、「安心して暮らしていける場所作り」「お一人おひとりの生活を大切に」するケアを方針としている。管理者はフロアー会議等に多くの職員が参加できるよう工夫し、理念に沿うケアが実践できるよう説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的ではないが交流をしている。	窓から見える向かいの保育園には、桜の咲く時期を含め散歩し、普段から交流を深めている。食材や花などを近隣の農産物の店で購入し、関係構築が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学に来られた時には説明をさせて頂いている。又近隣の施設などに出向きお話しをさせて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を行っているが、予定があり参加して頂ける方が少ない。	地域包括、市職員、家族を参加メンバーとして定期的に開催されている。事業所の取り組みについて適宜報告が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者が定期で市役所へ出向き報告を行っている。	市の職員とは日常窓口で訪問し、報告・相談を含めた関係を築いている。研修や市からの情報はメールで受け取り、情報収集のツールとして使い分けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は施錠しているが、ご利用者様が行きたい時には職員と一緒に外に行く。身体拘束をしないよう取り組んでいる。	年2回は身体拘束についての研修を行っている。法人グループの情報や事例を職員に周知し、ユニットごとの問題とならないよう全フロアーで情報共有が図れている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に努めているが、職員なども十分注意をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等は行っていないが活用している方もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解除の際管理者の方で説明して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来られた時などに意見や要望を聞き管理者へ報告している。	家族に毎月「そよ風便り」を送付し、事業所内の様子が伝わるよう、写真をできるだけ使うようにして報告している。面会のない家族はない為、管理者・職員は面会時に家族からの意見を把握するように工夫している。	毎月の便りが送付されているが、年間行事や利用者の誕生日など、家族に訪問していただけるきっかけを提供し、更なる利用者の満足度を高める工夫を期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニット会議や全体会議の場を設け意見交換している。	会議は報告や研修を中心とし、普段から職員の意見を聞く機会を設ける様努めている。意見を聞く機会を設けることで、普段話にくい相談も多く聞くことができ、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	時々ねぎらいの言葉掛けて下さる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の人数が少ない為、研修などの参加はなかなか出来ない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	エリア会議等で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安等感じている際ゆっくり話を聴く時間を作るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様と話をする機会を設け話を聴ける様に努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者の方やその家族の方と話し、優先順位を決めサービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員、ご利用者の関係を良くしていく努力はしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご家族様が面会に来られた時にご本人様の状況、様子をお伝えし情報交換している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が面会に来た際もお断りせずいつでも来ていただいていたいいこととお話させて頂いている。	入居前からの友人等の来訪時には、ゆっくり話ができるよう居室を利用頂いている。友人と外出する利用者もいる。美容院や映画などできるだけの外出希望に沿うよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様孤立しないように職員が仲介に入り支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も連絡が取れる様関係性を保っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は入居者の希望に沿えるよう努力している。	管理者は開所当時から代わっていない。利用者の生活歴などの情報は職員が理解できるように周知している。介護度が進み言葉での表現が難しい場合は、表情や雰囲気などから察し、サービスを提供している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	全員ではないが、昔の話等聞きその他にも基本情報やアセスメントを通し把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で情報共有し把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様が面会に来られた際説明させていただきご家族様からも意見を聞き参考にさせて頂いている。	利用者や家族の希望を確認し、毎月すべての利用者のプランをユニット会議で見直ししている。特別なプランも含め、職員は業務前にすべて記録を確認してからサービス提供を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	細かく記録に残し職員間でも情報共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様のお話を聴きその都度ご本人様にも話を聴かせていただきその都度変更している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのコンビニやパン屋へ一緒に声をかけたりと地域の方々と触れ合う機会を作っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月かかりつけのクリニックの往診があり、精神科の往診も受けている。	提携病院とは24時間オンコールで連絡が取れる体制が整っている。ユニットごとや個別の往診がある。その他、訪問歯科や精神医の受け入れを行い、医師からの指示に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎月の往診時に一緒に同行して来て下さる。それ以外にも電話相談等も受けて下さっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際にも情報交換等スムーズで関係も出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約する際に説明させて頂いている。ご家族様も必要に応じて管理者より説明して下さっている。	入居前の契約時に、重度化した場合や終末期のあり方について、家族・利用者に説明している。重度化がみられる場合は、状態を随時家族に報告しながら医師との連携を行っている。今までに2名の看取りを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新しく入職した職員に対しては説明はしているが訓練は出来ていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っている。	避難訓練は年2回実施し、夜間や自然災害における訓練も実施されている。各フロアには3日分の水や食料など備蓄が行われており、マニュアルは各フロアに設置してある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛けの際その方を尊重し声掛けに注意している。	研修を通じて、声掛けの仕方や大きさ、利用者ごとの対応方法を職員全体で周知・対応している。排泄、入浴介助はプライバシーや羞恥心へ配慮し、記録などの個人情報には鍵がかかるキャビネットなどで工夫されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けの際や昼食、外食、買い物に行く際選択肢を用意し働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のペースに合わせられるよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事や外出の際、衣服等あるものでおしゃれを支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	味噌汁作りや野菜切り等一緒に行い、盛付や片づけも手伝って頂けている。	管理栄養士の指導による食事メニューが提供されている。準備から片づけ等も希望により職員と一緒にやっている。季節を感じる食材や地域の農産物、陶器を使用することで食事全体が楽しめる工夫がされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事が余りすまない方にはおやつ等で嗜好品など提供している。水分は1日1000ml摂取して頂けるよう甘い飲み物等促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は出来ていないが、介助する方に対しては歯磨きの際口の中、舌等観察している。その他しか往診も入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助が必要な方に対してはこまめにトイレ誘導し排泄感覚等把握しトイレで失敗無く出来る様支援している。	排泄チェック表を用い、利用者ごとの排泄タイミングを把握している。食後の排泄が習慣となるよう声掛けし、できるだけトイレで排泄していただくよう支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	普段より水分量が少ない方には促しをしたり、食事の際食物繊維を多く含んだ物をさしたりと工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望がある際は他入居者の方がいなければ入浴して頂いており、なるべく希望に沿えるよう努力をしている。	毎日希望があれば、午前、午後問わず対応している。同性介助で対応し、職員とコミュニケーションとりながら入浴を楽しめる工夫がされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を把握し自宅にいるような感覚を味わって頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全員ではないが大事なお薬等は職員間で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	時々外食を計画立てたり、その人好みに合った嗜好品など取り入れるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日に1回は散歩だけでなく外出が出来る様計画を立てている。	月に1回外出している。季節ごとに外出計画をしているが、外出を希望されない利用者も多くなり、家族に相談しながら、通院帰りに食事をするなど行っている。外出が難しい方の為に、庭に花を植え観賞出来る様工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人でお金を管理している方がいるが、持っていない方に対しては外出などで声かけし、買う際にはお渡しし購入して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人さまより希望があった際には職員がかけ電話を変わりお話しさせて頂けるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁などに季節に合った花や飾り物等で工夫しており、毎月写真等を貼り出し廊下を歩く際など目が行きやすい所に貼ってある。	湿度を50%に保つように、各フロアーに加湿器が設置されており、心地よい共用空間が保たれている。利用者や家族が話題にできるように、各フロアーの壁面には毎月の便りと行事写真が掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の窓側にはソファを置き一人になれる空間づくりをしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で良く使用されていた家具等ご家族様より持ち込んで頂いている。	テレビ・タンス・椅子、食器など使い慣れた家具や家族の写真、仏壇などを持ち込んで頂き、利用者の希望する空間となるよう配慮している。毎日の室内清掃にて清潔な空間が提供されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人様のできる事を活かし自立支援を行っている。		